

「研修会等名称」第 9 回 FD フォーラム・第 1 回高大連携教育フォーラム

場所：龍谷大学，キャンパスプラザ京都

期間：2 月 28，29 日

1. 研修の内容

2 日間に渡って、「高大連携」をテーマにした教育フォーラムに参加した。初日は龍谷大学にて、養老孟司氏の特別講演と、中学・高校で実際に努力されている 3 名の先生方のパネルディスカッションを聴講した。新学習指導要領に対しては、様々な批評・批判があるが、このフォーラムではその批評や問題点の整理に終わらず、そこから何が可能か、現場の先生がどのような点で苦労されているかということに踏み込んだ議論がなされ、実際にどのような活動をしているかという報告があった。パネルディスカッションでは、新学習指導要領に否定的な左巻氏と、比較的容認派の藤原氏が議論を戦わせる場があり、これまで否定的な情報にしか触れてこなかった私にとって、いろいろと考えるきっかけとなった。

2 日目は場所をキャンパスプラザ京都に移し、小グループに分かれての分科会が行われた。私は、午前中に第 2 分科会「新学習指導要領と大学での学び - 社会科学系教育を中心として -」、午後に第 10 分科会「大学入試を考える - 接続不良を起こさないために」にそれぞれ参加した。第 2 分科会では、学力低下が本当に起こっているかどうかの検証、それに対して高校の先生方がどのような取り組みをしているか、大学に対する要望などが意見として出された。河合塾の大竹氏が提示した学力低下を示すデータや、堀川高校で行われている「探求基礎」の具体的な説明など、恥ずかしながら私が今まで全く知らなかった情報が次々に出され、大変勉強になった。

第 10 分科会では、理系学部の先生方がどのような危機感を持っているかという説明の後、それに対してどのような解決策があり得るかという提案が示された。提想自体が完璧に理系を対象としており、これを我々がそのまま消化することはできないが、経済学は数学を使うなど、類似する部分も大いにあるので、参考になるところも多かった。

2. 研修の成果

学力低下や新学習指導要領については、噂に聞いたり、書物やインターネットで調べたりしたことはあったが、実際に高校の先生からお話を伺うのは初めての機会であった。そういう意味で、自分の知識と現実とのギャップを確認できたことや、これから我々がどのような活動をすべきかについてのヒントをもらえたことは大変意義があったと思う。

しかし、それ以上に、中学・高校の先生方の情熱に触れられたことが私にとっては大きかった。これまでの私の教育活動がいかに未熟であるかを思い知らされただけでなく、フォーラムが終了した後、中学・高校の先生方のエネルギーが私にも伝播してきたような感覚が残っている。このエネルギーを受け取ったこと、これが今回の研修における最大の成果であったと感じている。

3. 授業への研修成果の反映状況

今回の研修は、どちらかと言えば、個別の講義の改善と言うよりも、むしろ全体的なカリキュラムや姿勢という点についての意義が大きかったように思う。よって、私の講義に簡単に反映できる部分は少ないかもしれないが、これからのカリキュラム運営や、学部改革などの取り組みに大いに役立てていきたい。

学部長	FD委員長	FD委員会	総合企画課長	係